

「教えて喜田先生！」子育てに悩む パパ&ママを応援！



学校法人喜田学園 通信制課程

東林館高等学校

- ◎3年で高校卒業を目指すコース
 - ◎受験対応個別指導コース
 - ◎中学生コース・社会人コース
- 目的に合わせた幅広い学びを提供しています

福山市光南町1-1-35
TEL.084-923-4543
FAX.084-926-9607



●福山駅南口から徒歩で約10分

東林館 福山

検索

「ごうせ自分なんて…」と口にする子どもに関する相談を受けることがよくあります。「ごうせ」の裏側には、子どもの心に強い劣等感が存在しています。その劣等感はなぜ生まれたのか？多くの場合、周囲の大人たち、特に親によって植え付けられた可能性が高いのです。

●劣等感の連鎖とは

そんな子どもの親も実は劣等感を持っていることが多いのです。劣等感を持つ親は、子どもに対して、態度や言葉で攻撃する・完璧を求める・けなす・人前でバカにする・ほかの人や兄弟姉妹と比較するなどの行動が共通しています。

子どもは当たり前前の感情として大人、特に親から守られない・愛されたい・褒められたい・理解されたい・親に喜ばれたい、親を独占したいなどの思いに溢れています。しかし、劣等感を持つ親の行動では、子どもの当たり前前の感情を満たすことはありません。その上、親から前述した態度をされると、子ども心に劣等感が植え付けられ、将来



喜田 紘平

東林館高等学校 理事長
実践心理学カウンセラー

学び・自立支援を通して 子どもの未来を創ります

親になった時にまた我が子に同じ行いをしてしまい、負の連鎖が続くのです。この負のスパイラルを断ち切る方法は2つです。1つ目は、親自身の劣等感の克服です。劣等感を持っているのは自分自身の親から満たされなかつた思いが未完了であるということ。自分の子ども時代を振り返り、本当は子どものころ、親にどうしてほしかったのを見つめ直す作業が必要です。

●親の態度を変革

2つ目は、子どもへの態度の変革です。前述した親自身の作業が進むにつれ、我が子への対応も徐々に変わりますが、子どもの心は待った無しです。親自身の作業と同時に進行で、子どもへの態度も変革しましょう。まずは、子どもへの攻撃をやめる・威圧的な態度をやめる・子どもをけなさない。そして、自分が子どもの時、「本当は親にどうして欲しかったのか？」を意識しながら、して欲しかったことを基に、ありのままに我が子に接することが大切です。